

ジョイ・ジョイ・ワーク引野は2015年に生活介護事業所を開所した。池田管理者は「オープン前に、色素性乾皮症という難病の方ご家族から相談を受けました」と振り返る。



社会福祉法人アンダンテ（福山市引野町南一―六―一、池田正則理事長）が運営する生活介護事業所「ジョイ・ジョイ・ワーク引野」（池田晴美管理者）はこのほど、全三棟へのUVカット施工を完了した。写真上。

# ジョイ・ジョイ・ワーク引野 難病抱える通所者のため 全棟をUVカット仕様に

二万人に一人という色素性乾皮症は、紫外線に当たるとシミや皮膚の乾燥が悪化する難病。難聴や足の変形、神経症状や皮膚がんを生じる場合もある。幼い段階では意思疎通が可能だが、次第に言葉が不明瞭になり、一〇歳を過ぎると神経・知能・体とあらゆる面で機能が低下する。「その時点ではまだ設計の段階だったので、一つの建屋をUVカット仕様になりました」



無事に通所できるようになったのは、同市在住の岡田大希さん(26)写真中左。当時、市内にUVカット対応施設は



一つもなく、特別支援学校卒業後の進路に困っていたという。「働く意欲があるのに、受け入れ可能な施設がないなんて悲しい。何とかしたいと思いました」と池田管理者。

しかし岡田さんが施設の行事などで別棟に行く場合は、その都度カーテンを室内に張り巡らすなどの紫外線対策が必要だった。「岡田さんがどの建物でも過ごせるようにと願って七年。やっと全棟がUVカット対応となりました」と池田管理者。

岡田さんは現在、電気のプロレーカーに使う小さなばねの仕分け作業のほか、利用者の送迎車に必要な体温計や手指消毒液などの準備を担当している。外出時はNASAの宇宙飛行士が着用する素材で作った防具写真下などで体を守らなければならないが、

「三棟どこへでも行けるようになってうれしい」とコメントした。

岡田さんが通所を始めた頃、父親が「色素性乾皮症について知ってもらいたい」と、同法人の職員を対象に講演を行った。今回の施工完了を機に再び講演を依頼し、職員全員で勉強したいという声が上が

っているとか。

池田管理者は「岡田さんが他の利用者さんと一緒に働き、楽しく活動する場を提供できるようにになりました。次の目標は特殊浴（機械浴）の整備。少しずつ取り組んでいきます」と話している。

問 084・971・8600

**ビジネス情報**  
2022年10月10日号